

アマモを増やそう！

海の博物館のアマモ場を増やす取り組みを紹介します。

この取り組みは、博物館と地元漁業者・小中学校が一緒になり、アマモの種を海にまいたり、苗を育てたりして、アマモを増やそうとする活動です。

伊勢湾ではアマモ場の減少が著しく、50年ほど前の100分の1になってしまいました。海の生きものにとってアマモ場がなくなると言うことは、人間に例えるならば、生まれ育つ家庭や、保育所、小中学校などがなくなり、安全に暮らせる環境がなくなると言うことでしょうか。まさに、海の生きものにとっては一大事なのです。

アマモを増やそうという体験学習は、誰でも参加できる簡単な方法で行ないます。

1 種を集めよう！

アマモは田んぼに植える稲によく似た植物。海中の栄養素と光合成のための太陽の光なしでは育たない。

花が咲き、種ができる。

6月、アマモの種をとる。一週間ごとにかき回しながら、花穂^{かすい}ごと網袋（コワリ）に入れ、海中で種を成熟させる。



アマモの花



アマモの種

2 種を選別しよう！

海水に浸けて40〜50日経つと種は熟成し、一つずつバラバラになり、網袋の底にたまってくる。

7月末、海から引き上げた種を何度も洗い、濃い海水を入れたバケツに集める。底に沈んでいる良い種だけを取り出す。そして、ごみや小さい生きものや悪い種をいねいに取り除く。



3 種をまこう！

アマモは種か地下茎を伸ばして増える

11月中旬から12月中旬

〈ガーゼ団子埋没法〉30センチ四方のガーゼに海辺の砂、アマモの種、砂、石の順にのせてガーゼの四隅をしつかり縛り、ガーゼ団子を作る。船で運び、そつと海に沈める。



〈ボトルでの育成〉生分解性の小袋に砂、アマモの種、砂の順に詰め、袋ごと海水を入れたボトルの中に沈めてフタをしておく。直射日光が当たらない明るい場所で、温度が上がらないように保管すると、アマモの発芽や成長を観察できる。2月頃にはアマモがつくる酸素が、葉の上に泡のようにつく様子が見られるようになる。



4 苗を植えよう！

3月、ボトルで育てた苗を植えよう。ふしぎ！ふしぎ！苗が元気に育ったボトルの水はとてもきれいだ。アマモが水を浄化している。

アマモが死んでしまったボトルは、水が濁り、すごい臭いがする。

ボトルから元気に育った苗を取り出して、大潮の干潮時に、干上がっていない海底に植える。大きく大きく育ってほしいと願っている！



「海は楽しいところだ!!」と熱く語ってくれる平賀さん